

雄飛

一般社団法人 雄飛会 (福岡工業大学同窓会)会報 **vol. 26**

発行 一般社団法人 雄飛会(福岡工業大学同窓会)／会報編集委員会
〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1
TEL/FAX 092-608-5982
E-mail dousoukai@fit.ac.jp
URL http://www.fit.ac.jp/dousoukai/

馨床しき峯の色

学後の夢をそよるかな

あゝ玄海に陽は落ちて

紫紺にかすむ玄花の



玄界灘(綿津見神社より撮影)

学生支援部からのお知らせ

新・学生支援制度について

福岡工業大学同窓会学生支援部では、令和元年度から同窓会育英金事業に替わり、学生支援の一環として在学生の修学および教育研究に関連する研究(調査)活動、学内外で開催されるコンテストや資格取得等にチャレンジする修学意欲を持った学生に対して、次の支援を行うこととなりました。

- (1) 学会発表支援
- (2) 研究及び技術開発等のコンテスト・コンクール出場等の支援
- (3) 学会誌・論文誌発表等支援
- (4) 資格取得支援
- (5) 海外語学研修及び留学支援(留学は滞在期間が最低半年)

支援内容、応募資格、申請期間、申請方法等は、大学内の同窓会掲示板に掲示しております。

同窓会会員子弟の受験料免除について

福岡工業大学および福岡工業大学短期大学の同窓会会員(在学生を含む)の子供、兄弟姉妹が本学の入学試験を受験される場合は、すべての受験料が免除の対象になります。

入試区分		受験料
大 学	専願制推薦・公募制推薦・3教科型	30,000円
	センター併用型(社会環境学部のみ)	5,000円*
	センター試験利用(前期・中期・後期)	15,000円(4学科まで)
短 大	専願制推薦、自己推薦	25,000円
	公募制推薦、一期A・B、二期	25,000円
	センター試験利用入試(前期・中期・後期)	10,000円

*但し3教科型入試(社会環境学部)を受験していること。

免除を希望される方は、インターネット出願の入力画面に従って、同窓会会員の方の情報を入力してください。(卒業年度、卒業学科、続柄等)

■問合せ先
福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部 入試課
TEL: 092-606-0634(直通) FAX: 092-606-7357
e-mail: nyushi@fit.ac.jp

令和元年度 代議員一覧 (令和元年6月~)

氏名	卒年科	役職	専門部会	選出地域
小柳 辰生	70電子	会長		福岡支部
米倉 和實	70電子	副会長	企画・広報部	福岡支部
桑原 雅浩	83電気	事務局長		福岡県
田中 陸教	66電子	理事	組織支援部	福岡支部
外山 吉計	71通信	理事	財務部	筑後支部
楠本 總幸	71通信	理事	学生支援部	福岡支部
齋藤 文親	67電子	監事		福岡県
松尾 正博	69電子	監事		福岡県
滝石 義礼	76電気			関東ブロック
石黒 佳一郎	72通信			関東ブロック
石田 裕人	79電子			東海ブロック
大明 孝雄	70電子			関西ブロック
川谷 伸一	90機械			関西ブロック
藤本 正宏	79電子			中国ブロック
岩岡 一平	85電子			四国ブロック
小口 幸一	71電子			福岡支部
萩田 寛司	72電子			福岡支部
小柳 礼二郎	74電子			北九州支部
出水 貴之	00情報			筑豊支部
柴田 廣樹	73通信			長崎・佐賀・大分
中本 龍二	76通信			熊本・宮崎・鹿児島
宮城 洋一	75通信			沖縄県支部
橋 豊文	69電子			福岡県
松尾 一壽	71電子			福岡県
北村 敏幸	81通信		学生支援部	福岡県
本行 義洋	84通信		組織支援部	福岡県
小松 時浩	86管理		組織支援部	福岡県
藤野 和美	92電気		企画・広報部	福岡県
矢羽 田誠一	69短大			福岡県
倉光 真紀	92短大			福岡県

百原 武敏 67電子 相談役



事務局より

1. 募金・名簿などの勧誘について

民間の広告会社より「大学・同窓会の新聞広告を掲載したいので寄付して欲しい」という趣旨の電話による勧誘が行われることがあり、その金額も2万円前後と高額なようです。また、民間の出版社より「福岡工業大学総合名鑑を発行するので、あなたの情報を提供して欲しい」という勧誘も行われているようです。同窓会では寄付や名簿に関する活動などについては、理事会および社員総会の決議を経て責任の所在を明確にして、必ず文書でお願いしています。従って、右記のような勧誘に対しては、同窓会本部では何ら関知しておりませんので、ご注意ください。

2. 異動の連絡をお願いします。

毎年発行される会報「雄飛」や交流会案内などが皆様の手元に確実に届くために、正しい住所の把握が必要です。皆様の住所・電話番号・勤務先の変更や改姓などにより異動が生じたときは、同窓会にもご連絡くださると幸いです。異動のご連絡は、同窓会ホームページ(<http://www.fit.ac.jp/dousoukai/>)の「住所変更のページ」から行うことが出来ますが、電子メール・FAX・葉書でも受け付けております。*異動(転居)がなくても会報「雄飛」等が届かない場合は同窓会事務局までご連絡ください。

3. 会報「雄飛」への情報提供をお願いします。

同窓会事務局では、皆様からの情報をお待ちしております。会員の近況・就職支援情報・会報「雄飛」に関する感想、その他「質問・要望」などなんでも結構ですので、とどしとお寄せください。

【連絡先】

一般社団法人 雄飛会(福岡工業大学同窓会)事務局
〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1
TEL 092-608-5982(直通)
FAX 092-608-5982
e-mail dousoukai@fit.ac.jp

編集後記

皆様のご協力・ご尽力を頂きまして、本年度も無事に会報を発行することができました。表紙の写真(玄界灘に沈む夕日)に思いを込めてお届けいたします。「50周年記念事業」の“音とモノづくりの歴史資料館のリニューアル”につきましては、本年度中に新しく生まれ変わってオープン予定です。乞うご期待ください。

支部活動報告

【福岡県北九州支部】北九州支部総会報告

福岡県北九州支部 幹事 安部 弘彦 (昭和56年通信工学科卒)

平成から令和へと元号も新たに、5月18日(土)JR九州ステーションホテル小倉祇園二の幹事会に始まり、7月6日(土)門司港和布刈「千兵衛」での納涼BBQ、9月28日(土)には、小倉「観山荘別館」での支部総会に下村輝夫学長にお越しいただき、大学の現状「平成30年度 教育・研究活動報告書」に沿って、全国トップクラスの教育拠点を目指して実施されているポイント内容を分かり易く丁寧にご説明頂きました。光栄の限りです。なんとと言っても就職率が99.8%である事。加えて、グローバル化と地域貢献の推進をされている事が我々卒業生にとつて嬉しい内容でした。

私が在学していた頃とは、学力レベル・学部・学部の名称、校舎も時代背景と共に進化していく姿に、下村学長をはじめ各学部の先生方の努力が見え、とても頼もしく、誇らしく、嬉しい限りです。

平成27年までは、「福岡支部の集い」に参加させて頂いておりましたが、一昨年前から北九州支部にお声掛け頂き現在に至っております。

世代を超えて、同じ学び舎を共にした同窓生が社会で培った個々のキャリアを披露でき、将来を担う子ども達に思いを馳せ、語り合える場を提供して頂いている雄飛会への参加者を増やし、次の世代へと深化キャリアアップさせて行くのも、また我々の使命であると思います。

私は、半導体製造装置メーカーに40年近く席を置き、開発・設計・製造プロセスの分野で汗をかくて参りました。取り分け、パワー半導体分野では車載用デバイスの製造プロセスに深く関り現職でもあります。

また、その企業人として培った、キャリアと町議会議員としての実績を基に、2度目のチャレンジで、本年4月の統一地方選挙(県議会議員選挙)において、遠賀郡選挙区(2人区)から当選させて頂く事ができました。これも諸先輩をはじめ、皆様のご支持・ご支援のおかげ様と感謝しております。

また、私が住む岡垣町から戦後初の県議会議員でもあり、5月の初登庁から身の引き締まる日々を送っており、併せて文教委員としてのお役にも恵まれ、教育分野へ20年近く携わる事ができています。教職を取って良かったと思う日々でもあります。

後輩でもある大阪市の松井 一郎市長も本学(昭和61年)卒業生であり、同じ経営者でもあります。

福岡工業大学 福岡工業大学短期大学部 学長挨拶

学長 下村 輝夫



晩秋の候、会員の皆様にかかれましてはご清祥のこととお慶び申し上げます。常日頃、学生への経済的支援などご尽力賜り深謝申し上げます。

さて、政府は今後普遍的な知識・理解と汎用的な技能を分離横断的に身に付けた人材、および時代の変化に合わせて積極的に社会を支え論理的思考をもって社会を改善していく人材を育成することが必要であるとしています。今後の18歳人口の減少による予測不可能な時代の到来を見据えて、数理・データサイエンスなどを基盤的能力と捉え、人工知能・ビッグデータ・ロボティクスなどの先端技術の発達による大きな社会変革に対応し、新たな社会をリードする人材を育成することが強く求められています。

私学については、これらの要請に的確に応えることはもとより、その強固な礎として財政的自立・自存も求められています。学齢人口の減少期において、経営改革と教育改革の断行を迫られている状況と言えます。このような環境の中で、本学は早期から改革の重要性を認識し、経営理念のもとに20年以上にわたつて多様な取り組みを行ってきました。これらの取り組みは相応の成果を創出し、13年連続入学志願者の増加、就職関連指標の高位安定、学園設置校すべての財政安定化に繋がっています。

教職員一同、学園全体のプレゼンスアップを今後とも実現してまいります。このためには、同窓会と学園の連携が不可欠です。で、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

同窓会会長挨拶

会長 小柳 辰生 (昭和45年電子工学科卒)

同窓会の皆様、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

皆様のご理解とご協力の下「一般社団法人雄飛会」は、一歩一歩着実に成長しています。

母校の学外評価は年々上がり、素晴らしい評価を得ています。

同窓会で取組んでいる50周年記念事業の「ミュージアム」は、社会に誇れる展示施設を目標に取組んでいます。現在、機器の展示作業もほぼ終わり、令和二年一月下旬の開館を目指して、説明パネル等の製作を進めているところです。

開館の暁には皆様に見学いただき、ご理解ご支援を頂き「ミュージアム」を雄飛会のブランドとして育てていただきたいと思います。

「ミュージアム」とは

元ドイツ語教授の秀崎良彦先生が約60年以上に亘つて主にドイツ・アメリカや日本を中心にエジソンの蓄音機・ワイヤレコーダー等の音響機器や時計・カメラ等を収集し、全て完動品として保存、その一部を大学施設内に「音とモノづくりの歴史資料館」として展示。秀崎先生より同窓会に同館の管理運営に関する依頼を受け、同窓会は50周年を迎えるに当たり「学生・母校・地域社会」に貢献でき、また、「同窓生の拠り所」としても有益であると判断、母校にご支援を頂き、50周年事業として取組んでいるものです。

「同窓会本部の現況」

①令和元年6月の社員総会において同窓会本部主催で開催しています「交流会」は令和2年6月

に中国地方で行い、その後は母校で4年毎に開催することが決まりました。

②同窓会活動の財源は皆様もご存知のように、「終身会費2万円」が全てで、年間収入は約2千万円です。この財源を「学生支援」「母校の発展」「支部活動支援」・「会報雄飛の強化」・「ミュージアム事業」等に効果的な振り分けが求められます。

そのため、同窓会の健全な財政運営を前提に「支部活動支援の在り方」、「情報提供の在り方」、「ミュージアム事業の在り方」等を重点に改善計画を策定します。改善案は総会に諮り皆様に周知しながら取組みます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

③同窓会は今年53年を迎えます。母校の発展なくして同窓会単独での発展はありません。そこで入学志願者の確保と就職先の斡旋など同窓生が一丸となり支援することが必要です。総会でも代議員の皆様にご協力をお願いしているところです。

「母校の現況」

①入学志願者数が13年連続で増加記録更新中、一般入試の難易度が年々高くなっています。②就職関連指標は全国トップレベル、約7割が上場企業・大手中堅企業へ就職。③教育・研究への積極投資を推進しながらも13年連続して経常収支黒字を維持。など母校は他大学に負けない素晴らしい発展を続けています。

結びに、同窓会が皆様のご理解ご協力で盤石な組織となり、「皆様の拠り所」になることを切に願っております。

同様の緊張感を持って、今後も雄飛会の諸先輩に感謝しつつ、また卒業生の一人として、雄飛会北九州支部の会員増強誘引、そして本学の発展と繁栄に尽力・精進して参りたいと心新たにしています。

むすびに、今回、執筆の機会を付与頂いた諸先輩に感謝しつつ筆を置きます。



福岡工業大学同窓会(一般社団法人雄飛会)支部一覧 (令和元年12月現在)

全国に26のブロック支部が結成され、世代を超えた会員相互の親睦を図る活動をしています。あなたが所属する支部から「支部総会」等の案内が届きましたら、同窓生を誘って世代を超えた出会いの時間を過してください。

Table with 3 columns: 本・支部名(ブロック), 本・支部長名(敬称略), エリア内訳. Lists branches across various regions like Hokkaido, Kanto, Tohoku, etc.

Table with 3 columns: 本・支部名(ブロック), 本・支部長名(敬称略), エリア内訳. Lists branches in the Kyushu region, including Fukuoka, Saga, and Kumamoto.

支部活動報告

【鹿児島支部】第8回鹿児島支部総会報告

鹿児島支部 支部長 増水 紀勝 (昭和42年電子工学科卒)

福岡工業大学同窓会鹿児島支部に於きましては、令和元年9月1日(日)、鹿児島市内の「ホテルパレスイン鹿児島」にて、第8回福岡工業大学同窓会・鹿児島支部総会を開催致しました。

鹿児島支部総会は、2年に1回開催することとしておりますが、今回は、支部会員17名に加えて、同窓会本部代表としての小柳辰生同窓会会長をお迎えしての開催と致すことが出来ました。

また、来賓と致しまして、熊本県支部から中本龍二支部長(南九州3県ブロック会議会長)と梅川定喜事務局長(熊本県支部副支部長)のお二人にも御臨席頂きました。

総会の参列者は、当初の予定より少なくなりましたが、例年通り、住所不明の返信ハガキや仕事等の都合によりとっしても出席出来なくなったとの報が余りにも多く、今後の総会への取り組みべき姿に重要な課題事項として残りました。

しかし、今回の総会には、同窓会本部の小柳辰生同窓会会長に御臨席を賜りました事で、参加者には大きな感動と母校への新鮮な思いを新たに駆り立てるには充分なものでした。

特に、大学の現況と同窓会本部の現状をお話しして頂く際には、参加者全員が自分たちの当時の思いに比較してその発展ぶりに感無量の面持ちで聞き入り、心からの喜びを感じさせて頂きました。

総会では、増水支部長の挨拶に引き続き、小柳同窓会会長の挨拶を賜わり、現在までの活動報告、会計報告・監査報告等の報告事項を受けて了承された後に、審議事項として、新たな新役員の選出、支部規約の改正、今後の活動方針ならびに会計予算案の審議を行い、これらを決議事項としてすべてを決議し了承・承認を致しました。

新役員では、現在までの役員に、一身上の都合により2名の幹事の辞退が承認されました。残りの承認されました新役員は、社会的経験の豊富な陣容で構成され、新たな気持ちで同窓会発展のための誓いを致しました。

総会終了後は、新しい試みと致しまして「ミニ講演会」(約30分〜40分)を開催致しました。「講演会」は、地元では著名なNPOまちづくり地域フォーラムがこしま探検の会の東川龍太郎氏による「西郷と大久保の秘話」と言う題目での講演を行ってまいりました。

流暢な会話の中に、地元・鹿児島県人も知り得なかつた西郷(隆盛)と大久保(利通)の奥深き話に加えて、NHK大河ドラマの「西郷(セゴどん)の隠れた秘話等を含めて、参加者全員が話に引き込まれて行き、大変貴重で盛り上がりの中に終始した講演会とな

りました。

今日の人づくり、モノづくりにも通じた興味ある話で、成功裡に終始したと思っております。

次いで、全員で記念写真を撮り、懇親会へと移行致しました。

情報交換会としての懇親会もそれなりに大変な盛り上がりを見せました。特に今回の懇親会では、自己紹介を兼ねた抽選会で盛り上がりを見せ、最後には学園歌、応援歌を皆で合唱して締め挨拶へと移行して成功裡に終了致しました。

また、懇親会の席では、参加者の会員同士で、これからの活動に対して、今回同様の独自の講演会開催や地域別又は職域別に小ブロックのイベント開催を目指して意気高揚を図りたいとの意見や、忘年会を兼ねた懇親会や同窓会発展のための秘策等、活発な意見交換が交わされ、今後多くの夢と期待とが籠められた情報交換会懇親会となりました。

これからも多くの同窓生の参加者が増える工夫を重ねながら、母校福岡工業大学ならびに同短期大学の発展に如何に寄与してゆかかを考え、さらに、支部会員の交流と発展とを心から祈念しながら、新たな目標を掲げて邁進してゆく決意を抱いて閉会と致しました。



福岡県筑豊支部長就任挨拶

出水 貴之 (平成12年情報工学科卒)



令和元年度定時社員総会におきまして、福岡県筑豊支部長の大役を仰せつかりました。皆様のご信任に心から感謝致しますとともに、大任に身の引き締まる思いです。

また、これまで支部運営に貢献されました松岡前支部長に感謝申し上げます。今後は、諸先輩方のご協力を得て、支部会員の掘り起こしを行い、若い年代層も取り入れた支部活動を行っていきたくと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

山口県内支部会員のみなさまへ
山口県支部総会・懇親会開催予定
日時：令和2年2月16日(日) 場所：シーモールパレス(下関駅前)

福岡県筑後支部会員のみなさまへ
福岡県筑後支部総会・懇親会のご案内
日時：令和2年5月17日(日)
会場：ハynesホテル久留米
福岡県久留米市天神町1-6
TEL: 0942-327211

一般社団法人雄飛会
福岡工業大学同窓会 交流会
令和2年6月6日(土) 12時~
広島県広島市
広島ガーデンパレスにて開催決定!!



強化クラブ 活動報告

硬式野球部

社会環境学部 社会環境学科 3年
(福岡工業大学附属城東高等学校)
主将 坂元 翔太



硬式野球部主将の坂元翔太です。
私たち野球部は現在、部員110名で明治神宮大会で勝つことを目標に日々練習に励んでいます。

私たちは素晴らしい球場や雨の日でも練習することができる室内練習場といった整った設備で何不自由なく野球に打ち込める環境で取り組ませてもらっています。

今年から野球部では「自主性」をテーマとし、個々のスキルアップは去ることながら、チーム目標達成のために何をすべきかを考え、練習に励んでいます。

今季リーグ戦では、神宮大会出場という結果にはなりませんでしたが、少しずつではありますがチームは変わってきています。春季リーグ戦で優勝し、たくさんの方々への恩返しができるよう日々精進してまいります。

これからも、硬式野球部への応援、ご支援よろしくお願ひします。



ラグビー部

社会環境学部 社会環境学科 4年
(目黒学院高等学校)
主将 ソセフォ・ファカタヴァ



ラグビー部主将のソセフォ・ファカタヴァです。

ラグビー部は1965年に創部された歴史のある部活です。

2019年度は、全国大学選手権ベスト8、を目標に『ENJOY RUGBY』(break through)のスローガンのもと日々練習に励んでいます。スローガンにはベスト8までの道を全員で楽しみ、ベスト8の壁を越えるという意味が込められています。

今年(2019)JapanがRWCにおいてベスト8の目標を達成しました。

JapanのようなONETEMを目指して、勝つための準備をしっかり行い昨年度はベスト8まで一歩届かなかったため、今年こそは雪辱を果たします。

学校関係者の方々やスタッフ、保護者のサポートなど沢山の方々にご支援をして頂いているおかげで恵まれている環境でラグビーに取り組むことができます。

勝つことが恩返しだと考えているので、勝ち続け最大の恩返しをできるように頑張ります。

また、地域の方々や応援をしてくださっている皆様に感動を与えられるよう部員一同精進していきますので今後とも応援やご支援のほどよろしくお願ひいたします。



女子柔道部

社会環境学部 社会環境学科 4年
(福岡工業大学附属城東高等学校)
主将 下條 華蓮



女子柔道部主将の下條華蓮です。

現在、女子柔道部は部員8名で、練習は週6日の一日3時間を附属城東高校生と共に城東高校練習場で活動しています。

今年、5月に九州学生柔道団体優勝大会で優勝し、6月の全日本学生柔道団体優勝大会に出場しました。全国大会では、惜しくも2回戦で負けてしまいました。また、個人戦でも8月に行われた九州学生柔道団体重別選手中権では、1名が入賞し、全日本学生柔道団体重別選手中権に出場しています。

今年達成できなかった全日本学生柔道団体優勝大会での優勝を目標に、これからも日々の練習に励んでいきたいと思っています。

個人戦でも、一人でも多くの選手が全国大会へ出場し、結果を残していけたらと思います。

今後も女子柔道部のいい結果が報告できるよう、頑張っていきますので応援よろしくお願ひします。



吹奏楽団

情報工学部 情報工学科 3年
(原田学園鹿児島情報高等学校)
主将 住吉 佑太



吹奏楽団主将の住吉佑太です。

福岡工業大学吹奏楽団は1963年に創部され今年で56年目を迎えます。これまでに全日本吹奏楽コンクールにおいて14年連続、通算18回出場し、金賞5回、銀賞12回、銅賞1回という成績を収めています。

第11回瀬戸口藤吉翁記念行進曲コンクールにおいてはグランプリ(最優秀賞)を受賞。平成24年にタイ王国シリキット王妃生誕80年記念コンサートに招待され、その演奏力はタイ王室より高い評価を受け、平成25年3月ヤフオクドームで開催されたWBC開幕戦(日本対ブラジル戦)において両国国家を演奏しました。

2018年11月には、常任指揮者に松井裕子先生を新たにお迎えし、2019年3月に行われた第42回全日本アンサンブルコンテストに九州支部代表として出場し、3年連続金賞を受賞。また、今年の8月に長崎県佐世保市で行われた第64回九州吹奏楽コンクールにおいても、就任一年目ながら金賞を受賞。九州支部代表として10月26日に青森県青森市で行われる第67回全日本吹奏楽コンクールに出場します。

コンクール以外にも毎年3月にFITホールで行われる「わじろで第九を歌おう」や、地域でのイベント演奏や演奏会など幅広く演奏活動を行っています。

皆球に感動する音楽をお届けできるよう日々精進してまいりますので、これからも暖かいご声援とご支援の程よろしくお願ひいたします。



少林寺拳法同好会

社会環境学部 社会環境学科 3年
(福岡県立中間高等学校)
部長 入船 雅樹



こんにちは、福岡工業大学少林寺拳法同好会部長の入船雅樹です。

私たち、少林寺拳法同好会は3年前に創部されたまだ新しいサークルです。先代より引き継がれ私で2代目となる同好会ですが、今年は15名もの新入部員を獲得し、新たな仲間と共に日々の活動に励んでいます。部員の9割以上が初心者ですが、1人1人の個性が強く笑いが絶えない雰囲気の中、少林寺拳法の技法習得に悪戦苦闘しつつ元気に活動しています。

私たち少林寺拳法同好会が活動していく上で大切にしていることがあります。それは、「他大学との交流」です。今年は、九州産業大学・西南学院大学・久留米大学・佐賀大学と合同練習を行いました。交流をする事で、技術の向上だけでなく、縦のつながりや横のつながりを広げることが出来ます。私たちはこのつながりが重要であると考えています。これからも「他大学との交流」を大切にしていきたいと考えています。

また、今年西南学院大学で開催されました第一回秋季全九州学生大会では、男子茶帯組演武の部で4位、男子初段組演武の部で2位と輝かしい成績を納めることができました。今後も良い報告ができるよう努力して行く所存ですので、応援のほど宜しくお願いします。

軟式野球部

工学部 電気工学科 3年
(伊万里高等学校)
主将 岸川 駿矢



軟式野球部主将の岸川駿矢です。

私たち軟式野球部は2012年にサークルとして発足し、2019年に部に昇格したばかりの部活です。

現在部員63名、マネージャー4名で活動しております。主にすべてのことを学生主体で行っており、1人1人が高い意識の中日々練習に取り組んでおります。また、今何をすべきかを自らで考え、行動に起こすことで自主性を高め、チーム全体でレベルアップしてきました。リーグ戦以外にも練習試合や大会なども積極的に参加しており、多くの大学と試合を行ってきました。

そして、4月に行われた九州学生軟式野球連盟春季リーグ戦において準優勝し、創部初の全国大会出場を果たすことができました。全国大会では、初戦で敗れてしまいましたが日々の練習の成果を出し切ることができました。それと同時に自分たちの実力不足も身をもって体感することができました。今後は、この経験を活かして秋季リーグ戦で勝ち上がり西日本大会に出場を果たしたいと思っています。

これからも、部員一同日々の練習に一生懸命に取り組んでいきますので応援やご支援よろしくお願ひします。

釣りサークル

社会環境学部 社会環境学科 2年
(九州産業大学付属九州高等学校)
部長 松崎 晃



こんにちは、釣りサークル部長の松崎晃です。私たち釣りサークルは今年の6月にサークルとして認められた新規参入のサークルです。現在1、2、3年生を含む計30人で楽しく、安全第一に活動しています。

主な活動は週一でミーティングを行い、そこで次の活動場所や天候、風、潮、波を読んで安全に行える日を決めたり、イベント、催し事等の話し合いをしたりしています。また、月一で事前に決めていた場所へ釣りに行き自分たちで釣った新鮮な魚を持ち帰り、捌き、美味しく食べらるまでを行っています。長期休暇では、長崎へ二泊三日の釣り遠征にも行きました。そこでは、釣りだけでなく、観光やBBQをしてより一層部員みんなとの絆が深まりました。

これからの目標は、他大学との交流や、釣具屋主催のボランテアとダービー参加個人での大会参加、一般の方も参加できる福岡工業大学内の大会などを計画しています。これからも、福岡工業大学の名を背負い広めると共に、安全第一でさらなる挑戦をしようと考えています。どうぞよろしくお願ひ致します。



アイスホッケー部

情報工学部 情報通信工学科 4年
(東福岡高等学校)
主将 多田 善樹



アイスホッケー部主将の多田善樹です。

私たちアイスホッケー部は、部員18名で活動を行っています。部員のほとんどが大学からアイスホッケーを始めた初心者です。11月に開催される学生アイスホッケーリーグ戦において1部昇格を目標に日々練習を行っています。

これまでの大会の結果は、九州の大学で行う九州学生アイスホッケー選手権大会では、決勝で敗れ準優勝でした。また福岡県の大学で戦う福岡県学生アイスホッケー選手権大会では、優勝をすることができました。そして9月には、西日本のチームが集って戦う第1回大学交流戦においても優勝をすることができました。この流れのまま学生リーグを戦い1部昇格を果たしたいと思っています。

練習は週3回行っており、1回は氷上で行い、残りの2回は大学の敷地内にあるコートを利用し、インラインホッケーを行っています。アイスホッケーは特殊なスポーツでスケートリンクを貸し切って行うため限られた少ない時間で効率よく練習できるかを考えながら練習を行っています。

必ず1部昇格をしますので応援よろしくお願ひします。

音楽研究部

工学部 生命環境化学科 3年
(筑紫高等学校)
部長 山岡 拓未



こんにちは、音楽研究部部長の山岡拓未です。

私たち音楽研究部は、各自好きな楽器を日々練習したり、バンドを組み2か月に1回ほどのベースでライブをさせたり、学文祭や立花祭では大きなステージでライブをさせてもらったりしています。部員の多くは大学生になつてから楽器に触れる人が多く、音楽の経験者、未経験者問わず、誰もが楽しんで演奏することが出来る、活気あるサークルとなっています。現時点での部員数は1年生から4年生まで合わせて77名で活動をしています。

また、現在では他大学と合同でライブを行ったり、情報交換を行ったりして交流を深めることによって関係を広げるようなことも行っています。

これからも私たちは、たくさんの人と交流をしていきながら、少しでも多くの人に音楽のすばらしさ、音楽の力というものを伝えていけるように日々精進していきたいと思っています。

良ければ学文祭・立花祭のライブステージに足を運んでみてください！



茶道部

情報工学部 情報工学科 3年
(山口県立下関工業高等学校)
部長 松田 知隆



こんにちは、茶道部部長の松田です。私達茶道部は毎週月曜日と火曜日に外部から先生にお越し頂いてお稽古に励んでいます。正月にはその年最初のお茶会で部員が集まりお茶会を開いたり、学術文化祭では実際にお客さんの目の前でお茶を点てました。先日には他大学と合同でお茶会を開きました。他にも茶道裏千家淡交会博多青年部という団体にも所属しており、そこが主催するイベント等にも参加しています。例えば茶筌作り体験や着物着付け体験や和菓子作りなど様々です。茶道部と言っても他大学との交流や社会人の方との交流も多く、活動の幅は意外と広いです。

茶道を学ぶ事により礼儀や言葉遣いが身に付きます。日本文化である茶の湯は奥が深く、その学びは終わることがありません。

徐々にではありますが部員の数も増えてきて、私達の活動はより活発な物となっています。ゆくゆくは単独でのお茶会も開催して行きたいです。

これからも日々のお稽古に励むと共に、日本文化である茶道の魅力を沢山のの人に伝えられるように活動をしていきます。



一般社団法人 雄飛会
福岡工業大学同窓会 事務局長
桑原 雅浩
(昭和58年電気工学科卒)



新潟県柏崎市郷土史家・関久氏執筆の 冊子「福岡工業大学の創立者 兼原玉市」 との出会いについて

私が自宅のパソコンにて文献検索をしていた時に偶然にも新潟県柏崎市の柏崎日報発行である福岡工業大学関連記事を見つけた。その記事の見出しは「福岡工業大学創立者兼原玉市の足跡一冊に」である。新聞記事を読み進めていくと柏崎市郷土史家である関久氏と創立者の甥にあたる兼原貞雄氏の尽力にて冊子が完成したとのことであった。

早速、私は柏崎日報までメールにて冊子及びCDを購入したい旨をお伺いをたてるものの、新聞社からの返答として冊子の在庫は所有しておらず、兼原貞雄氏が所持されているとのこと。貞雄氏の自宅の電話番号を教えて頂く事となった。その流れで即電話を入れて、事情をお話し、冊子とCDを譲って欲しい旨、お願いをすると、快諾して頂き、翌週には自宅まで冊子とCDが届いたのである。冊子を読み込んでいくと私たちが知らない創立者の一面が窺え、感慨深いものがあった。この情報は福岡工業大学を卒業したすべてのOBと共有すべきであると判断し、今回の会報雄飛26号に掲載する運びとなったのである。

加えて、著作権等のこともあるので、執筆者の関久氏と兼原貞雄氏(1970電子卒)の了承を得ておくことを申し添える。
以下、関久氏を取り纏めた創立者の記事である。どうぞ、お目通しください。

午前中自動車であらゆる郷土の土をふみ、少年時代の母校中央小学校を訪問。児童に講演を行い、さらに恩師の村山智全師の胸像のある妙廣広寺で墓参り恩師の胸像と対面。正午は中学校で江口校長と会食。講演後は長岡を経て帰郷の予定となっている。最後に兼原氏の教学宣言にふれてみたい。
①エレクトロニクス時代は、人類文化に新たな革命をもたらした。人類が昔から夢に見た星の世界への飛躍は、すでに実現化している。恐るべき科学の進展といわねばならない。いまわれわれの頭上を高く飛んでいる人工衛星の内部は、電子科学の精巧な機器で充満されている。それはあたかも人間頭脳の細胞組織のように、ある機器は進行方向を自動的に決定し、ある機器は目玉のように、外界のあらゆる対象を視野に納め、これを受取る。また、等々全く超人間機械が地上の生きた人間に伝えている。まさにエレクトロニクスは人類文化に、人間生活に驚愕すべき革命をもたらした。この最新の科学の基礎となるべき原理を教え、この精密なる電子機器の構成を実験実習によって習得し、国家世界、社会に広く高く、そしてふかく貢献すべきはこの時代の青年の高邁なる理想であり、夢であらねばならない。青年諸君よ！日本は電子機器の劣弱によって敗れたが、しかし、いまやテレビ、トランジスタ、電子工業は世界の工業国のトップに立っている。否、この二つの工業だけが世界第一である。
②日本民族の頭脳と技術は、いまや世界の人々から高く評価されている。われわれは、いやが上にも、この工業の興隆と展開によって新産業革命のトップを突き進まなければならない。栄光ある闘士たるもの青年諸君たちである。③本学は、この君たちの誇り高き理想、憧れ多き夢を実現させるための教育を実践するところである。」

兼原玉市氏(以下敬称略)は北条村大字旧広田で生まれ、東京大学経済学部を出て、のちに九州へ渡り、福岡の和臼(わじろ)ヶ丘に大学短大高校を設立し、学生万名教職員五百四十名の大学の経営者であった。十一月四日に福岡を出発し、翌日、講演を済ませ、恩師の胸像に対面して、その日のうちに福岡へ帰った。柏崎日報は玉市の郷里訪問に先立って、前出の記事を報じたのである。

三、 家系

JR信越本線の越後広田駅は、南北を山に挟まれた、寒村の無人駅である。兼原玉市の生家は、駅の西方、徒歩一キロ弱の集落、柏崎市大字旧広田(引地)にある。

福岡工業大学の創立者 兼原玉市

新潟県柏崎市郷土史家 関 久

- はじめに
- 一、 兼原玉市創立の学校
- 二、 「柏崎日報」掲載の兼原玉市氏
- 三、 家系
- 四、 四恩報学舎
- 五、 経歴
- 六、 学校の創立
- 七、 教育理念を貫いた玉市と、私財を投じた学校を救った笹川良一
- 八、 博多と広田で伝え継ぐ玉市の足跡



福岡市「片江風致公園」(旧日本文学碑園)にある玉市揮毫の碑

かすかな記憶をたどってみると、生前、父がある日の夕飯のとき、「今日、兼原玉市さんと、う人の講演を聴いてきた。なかなか、大したもんだ。」と云っていた。後日、父からもらった地元紙「柏崎日報」に、兼原玉市さんが北条中学校で講演される記事が掲載されていた。昭和四十二年(一九六六)、同校が創立二十周年にあたり、十一月五日、学校で記念式典が開催され、兼原氏が九州の福岡から招請されたのである。これが、私が兼原氏を知ることになった最初である。(ちなみに、私は同校昭和二十七年卒業生である。)

一、 兼原玉市創立の学校

JR鹿児島本線博多駅から北へ六つ目、快速電車で十四分ほど走ると、福工大前駅に着く。
和白ヶ丘と称する丘陵の根っ子にある駅で、福岡工大の学生教職員専用とも、える駅である。駅の東側丘陵帯が学校用地で、約二十五万坪。大字南条(近年耕地整理した水田面積が、丘陵段川原を合わせて約二十四万坪。)くらの面積である。部棟のほかに、六つの大学棟、講堂学寮その他の施設設備を完備した豪華な学園景観を形成している。

明治三十三年(一九〇〇)十一月五日、玉市は父亀太母ソミ(旧広田字細越 田村清八の娘)の長男として生まれた。祖父(名不明)や父は、いずれも早世したが、祖母コユ(柏崎市畔屋石口仁五右衛門の長女)は大正五年(一九一六)十月五日教え八十三才、母は昭和二十七年十月三日教え八十一才で七くなり、いずれも長命であった。父は玉市出生の前年、明治三十二年(八九九)に死亡し、同四月、教え年六才の長姉キヨウが兼原家の戸主にされている。玉市は祖父や父の顔を知らない。祖母や母に育てられた。

玉市は姉弟四人の末っ子である。長女キヨウは明治二十七年(八九四)出生。大正三年(一九一四)二十一才のとき、家督を弟玉市(十五才)に渡し、旧広田の神林安治に嫁いだ。キヨウの長男馨、長女十四(トシ)、兄弟ともに現在も健在である。十四は、大字大広田の敬次郎(兼原清市郎六男)と結婚した。
昭和二十三年(一九四八)の暮、玉市の母ソミは、一人息子の玉市が生家を離れていたので、その跡をつがせようとして、敬次郎十四夫妻を自分の養子に迎えた。なお、キヨウの妹(ソミの二女)フキ(明治二十八年生)は大広田の村山利作家の養女になり、次の妹(ソミの三女)シイ(明治三十年生)は柏崎市軽井川の関矢弥之助家に嫁いでいる。

四、 四恩報学舎

今風にいうと、生前、父が死亡して、玉市は母子家庭の跡とり息子であった。生地は広田は、土地柄からいって耕地に乏しく、決して恵まれた農村ではない。男手のない兼原家は、祖母と母が、幼い二人の姉と玉市を抱えて、野良仕事に死に物狂いに働いた。その後姿をみて、玉市が育った。

祖母や母は、きびしい暮らしから抜け出すには、「玉市に、学問を身につけさせることだ。」と、思っていたに違いない。玉市の家の東一キロ足らずの山麓に、兼原家の菩提寺、日蓮宗妙廣寺がある。小千谷の丸山忠蔵家の二男が、妙廣寺で得度して大広田の村山家の養子になり、得度二〇年後の明治二十八年(八九五)に同寺三十世住職になった。村山智全(ちぜんともまさ)師である。
この年、智全師は土地の有志とばかり、境内に四恩報学舎という学校を開いた。四恩とは、国を治める人の恩、父母の恩、師の恩、一切同胞の恩のことである。

この四恩報学舎は、玉市が生まれた年に、新潟県の認可をうけ、正規の学校として発足した。修業年限三年、二学級、生徒三十人。科目は修身・国語・算術・地理歴史である。この頃、北条

現在、ここに福岡工業大学同大学短期大学部向大学付属城東高校立花高校があり、数々の学生が学んでいる。こうした学校の創立者が、私たちの郷里、北条地区の出身であることを知る人は、今日では数少ないように思われる。

二、「柏崎日報」掲載の兼原玉市氏
兼原玉市氏に関する私の認識は、きわめて貧しいもので、「地元の広田(ひろた)出身で、九州で大学をつくられた人」という程度のものであった。そんな私の認識を深めてくれたのが、前出の「柏崎日報」の記事である。それを、ほぼ原文のまま紹介させていただきます。左のとおりである。

北条町の生んだ偉材 兼原玉市

(「柏崎日報」昭和四十一年十一月四日付記事より)

「北条町が生んだ偉材のひとりである福岡電波学園(この中に大学(二、高校四)の創立者であり、現学長である兼原玉市氏は北条町旧広田の出身で、明治三十三年十一月五日生まれの本年六十七才。東京帝国大学経済学部を卒業後、日大研究室、大阪日大監を経て終戦後の二十九年に福岡市で大規模の電波学園を建設。い、その学長として経営の先頭にたっている。同学園には福岡工業大学、同大学短期大学、電子工業専門学校、電波高等学校、第二高等学校、立花女子高等学校が含まれており、兼原氏はその創立者であり、学長であり、また理事長として精力的活動をみせているのである。」

同学園の創立以来の歩みをみると、昭和二十九年十二月福岡市和白ヶ丘の上にあらず電子工学専門の教育を目標として電波学園を建設。三十三年四月同市西戸崎に電波高等学校を開校。三十五年四月短期大学、三十八年四月電子工業大学を開校した。さらに四十年四月立花女子高等学校を開校、これらを含めた電波総合学園として今日に至っている。
現在、大学はかの校地八二〇、三三三平方メートル(二四八、一四二坪)、校舎六四、二四八平方メートル(九、四三三坪)、生徒数実に一万名、教職員五四〇名、九州の誇る近代科学の殿堂といわれている。このような同氏の活躍は町民の誇りとし、町民すべての敬愛を集めており、町に名譽町民の条例があれば、その第一候補といわれている。

同氏は五日(昭和四十一年十一月)に北条中学校の創立二十周年記念式の記念講演に出席のため、四日飛行機で福岡から上京、同夕新潟着の上、長岡市福寿荘に宿泊。親交のある越後広田郵便局長中島秀雄氏が町長代理として長岡に迎え、五日村として、学校の整備をすすめる。東条小学校(光安)・小淵小学校(入小島)・広田小学校(大広田)を統合して、笹川に第二尋常高等小学校として明治四十一年(一九〇八)に開校させた。玉市は菩提寺の四恩報学舎で学び、村山智全の薫陶を受けた。後年、玉市が苦学を志し、東京帝国大学で学ぶことになったのは、この学舎で培われた素地によるものであろう。
妙廣寺の門前に、村山智全の胸像と村山智全顕彰碑が建てられている。これは昭和四十年(一九六五)十一月、四恩報学舎で学んだ門弟たちが建立したもので、玉市が碑の文章を撰文(撰文)している。それは左のとおりである。



妙廣寺の胸像と村山智全顕彰碑

先師純那章師に就て剃度後宗門の学林にて斯学の蘊奥を究め更に普通学語学等に研鑽を進め帰山先師を承て寺務総理の傍ら郷土の文化啓蒙千年二十八年三月郷党有志と四恩報学舎を創立地方青少年の教育指導に任じ爾後三十有七歳々として遂に倦ず門下実には二十余名現時郷党の中核として活躍中の同窓二百余名偏に恩師の薫陶による恩師識見高邁子弟教育に当ては厳乎たる中温容交の如しその才幹によつては簡抜して東京帝国大学の最高学府に学ばしめその志を伸して社会に貢献せしめ或は地方後進の嚮導に尽粹せしめる等門下人材の育成余す処なし恩師溘然逝して二十一年吾等同窓深くその恵沢と偉業を敬慕し茲に相議して彰徳の像を建立し以て後世に光鑑とする

昭和四十年十一月 村山智全師報恩顕彰会 遠藤順(一外)同撰文 門弟 電子工業大学長 兼原玉市

(補説)剃度(ていど)出家する。 蘊奥(うんおう)学問の奥義を会得する。 研鑽(けんさん) 励む。 溘然(こうぜん) 突然。 郷党(きょうとう) 地域の仲間。 嚮導(きやうどう) 導く。 才幹(さいかん) 素質。 薫陶(くんとう) 教える。 光鑑(こうかん) ひかり輝くかがみ。

碑が建立された二年後、玉市は北条中学校の記念講演のため、福岡から一泊二日のあわただしい日程で、広田へやってきた。その際、妙廣寺の恩師智全の墓と碑を訪ねている。寒村で生れた自分が、東京帝国大学を出て今日あるのは、智全師のお陰で、生涯の恩師と仰いでいたのであろう。

五、経歴

玉市は早くから故郷を離れ、地元との交際も、一部の人間に限られていたようで、その足跡を知る手がかりは、柏崎の地元では殆ど見当たらない。幸い生家についておられる甥の真雄氏、実弟の秀時氏から、お話を伺うことができた。

玉市は明治三十三年(一九〇〇)、刈羽郡広田村大字旧広田の農家の長男として生まれた。翌年、広田村は南条北条小淵・広田長鳥の五ヶ村合併によって、北条村(現在は柏崎市)になった。父は亀太、母はミヅである。長女キヨウニ、次女フツ子、三女シイという三人の姉がいて、玉市は末っ子の長男であった。しかも生まれる前に、父が死亡し、玉市は祖母コヲを頭に、女性だけの家で育ち、父の顔は知らない。

明治三十九年(一九〇五)、四月、六才の時分から、玉市は妙廣寺の四恩報学会、通いはじめた。

大正八年(一九一九)旧制新潟高校(現新潟大学)が設置されると、検定試験で卒業資格を取得した。(時期は不明)

二十才を超えると、徴兵検査がある。毎年四月から七月に召集され、村役場で徴兵検査(身体検査と学力検査)を受ける。当時は入隊志願者が殺到し、刈羽郡の合格者は、くじ引きで高田(上越市)の第十三師団に入隊した。幸運で名誉なことであった。一年間訓練を受けると、希望者は十一月三十日に除隊できた。指導教官中村大佐が、玉市の素質を見抜いて云った。「ここはお前の居る所じゃない。別の世界で身を立てたらどうだ。」玉市は大佐の助言を受け入れて離隊した。そうして東京へ出た。東京帝国大学への受験を志し、アルバイトをしながら、受験勉強をした。

大正十一年(一九二二)二十三才の時、朝日新聞社で給仕(雑役夫)として働いた。ところが、翌年、関東大震災が起り、名古屋へ疎開し、予備校へ通うことになった。一年間浪人し、新聞配達をしながら受験勉強をした。大正十四年(一九二五)二十六才のとき、念願の東京帝国大学(現東京大学)経済学部に入學した。昭和四年(一九一九)三十才のとき、帝国大学経済学部を卒業した。経済不況真つ盛り頃である。教授が薦めた「住友」を断り、二年間朝鮮へ渡った。朝鮮で木下オセと知り合った。オセは

長が就任。

平成十三年(二〇〇二)福岡電波高校を福岡工業大学付属城東高校と改称。平成十四年(二〇〇三)福岡工業短期大学を福岡工業大学短期大学部と改称。平成十五年(二〇〇四)立花高校が全日制単位制を導入。平成二十六年(二〇一四)立花高校が文部科学省のモデル校になる。

この沿革を整理してみると、玉市は今日の福岡工業大学福岡工業大学短期大学部、福岡工業大学附属城東高校立花高校の四つの学校の前身を設立したのである。その経営母体が学校法人福岡電波学園で、玉市が初代理事長(経営責任者)であった。

学校設立の意図は、前出の「柏崎日報」が詳しく紹介しているので省略する。玉市は「萬有休」の人間育成を提唱し、建学の綱領として三項目を掲げている。

- 一、学徒の品性を陶冶(育てる)し、真の国民としての教養を啓蒙(育てる)する。
- 二、宇宙の真理を探究し、これを実生活に応用して社会に貢献する。
- 三、人類至高の精神、自由平和・信愛を基調として世界に雄飛する人材を育成する。

当初の募集定員は、

福岡工業大学	一学部六学科	四八〇名
福岡工業短期大学	一学科	二〇〇名
福岡電波高等学校	二学科	四五〇名
計		一、三三〇名

七、教育理念を貫いた玉市と、私財を投じ学校を救った笹川良二

云うまでもなく、学校の財源は基本的には授業料である。資金の多少を左右するのは、学生数となる。入学時の寄付金は「ピタ一文受け取らない」が玉市の流儀であり、巨大化する学園の経営は次第に困窮することとなる。公的な私学振興会の支援金だけで賄える筈もなく、外部からの借入に頼ることになる。

以前に資金調達の折、郷里出身の政治家である大蔵大臣田中角栄氏を訪ねたことがあり、裏書してもらった角栄氏の名刺を、佐賀銀行の頭取に渡すと、大金を二返事で融資してもらった経緯があるとの裏話も聞いているが、残念ながら、昭和四十二年(一九六七)四月、経営母体である福岡電波学園が、事実上倒産し、翌年破産宣告をうけることになる。破産宣告に至る経緯は色々な情報飛び交い、今となっては知る由もない。教育の場

玉市より一才下。長崎県西彼杵郡(そのきぐん)喜々津村水床名の出身である。

昭和六年(一九三二)三十一才のとき朝鮮を引きあげ、オセと結婚した。

玉市は、数年間、オセと東京中野区上高田で暮らした。自分は日本大学に勤め、オセは下宿屋を経営した。昭和十二年(一九三七)三十八才の頃、姉キヨウの長女十四(トシ十八才)が手伝いに上京している。

その後、玉市は大阪専門学校(大阪専門学校は昭和十四年に日本大学から独立し、同二十四年に近畿大学と改称)から学園奨励の収拾依頼を受け、教授として単身赴任したようである。やがて太平洋戦争を迎え、皇国愛国の風潮が一世を風靡した。玉市も熱心な愛国論者で、「大東亜聖化の理念」という本を書き、富士書店から出版した。昭和十九年(一九四四)、オセが東京中野区上高田で長女万里子を出産している。時期ははっきりしていないが、玉市は学校経営者の不正を追及し、終戦前後に自分も大阪専門学校を辞職した。

昭和二十一年(一九四六)四十七才のとき、家族をつれて東京から大阪へ転住した。そうして兼原物産という会社を創立した。戦後の物資不足の混乱期である。妻オセの故郷、長崎県の海産物を仕入れて、関西で売りさばく会社である。その頃、ウラン鉱脈を探して西国(足)をのぼすようになる。時まさに、石炭産業が花形産業として活況を呈していた。この波を見逃す手はないと思つたのか、玉市は会社を閉じて、大阪から佐賀県相知町へ移り、「洗炭」を創業した。洗炭とは、石炭を水で洗い、不純物や、不良炭を取り除いて良質の石炭を作り出す作業である。このときの仕事の仲間が、のちに玉市が学校を設立する際の協力者であったという。

昭和二十七年(一九五二)五十三才のとき、十月三日、母ソミが八十一才で死亡した。

翌二十八年(一九五三)五十四才のとき、博多で経営不振に陥っている電子専門学校があり、玉市はこの学校から、教育と学校経営を任せられ、電子工学を教える学校経営にのりだすことを決意した。思うに、草葉の陰から亡き母の後押しがあったのかも知れない。翌年、福岡の和白ヶ丘に福岡高等無線通信学校を開校した。ここに今日の福岡工業大学の前身が、産声をあげることになった。

六、学校の創立

電子や、電子工学の名は耳にするが、私は、それが何である

とはいえ、私学の経営もまた無情なビジネスの世界といわざるを得ない。

玉市が前年の十一月に、郷里の北条中学校の記念講演にやって来た時には、すでに倒産の危機を抱えていたことになる。だがこのような状況の中でも玉市の教育理念は一貫しており、感動を呼んだエピソードがある。

それは倒産騒ぎの余波で、立花高校では生徒数が三人まで落ち込み、福岡市職員が閉校を勧めるために来校した時である。玉市は説得に来た市職員に、「教育の質を、数で語るな」といつて追いつ返したそうである。また教職員の給料支給に困り、兼原毛糸店からの毛糸玉一個を現物支給すると、みんな「有難うございます。」とお礼を云って受け取ったと聞いている。

このことは平成二十六年に立花高校が文部科学省のモデル校に指定された時に、福岡の某テレビ局による取材VTRの中で、現職の齋藤校長が語っておられ、取材した記者も「しびれますね」と賛辞を送っている。(今でもインターネットサイトで確認することができると)

何よりも、玉市の教育理念に賛同し、一丸となって教育を守ろうとした教職員の方々の存在とその行動に感動せざるを得ないのである。

教育現場であつても私学の経営はビジネス、当時の文部大臣坂田道太が動いた。大臣室に招かれた笹川良二に云った。「福岡工業大学が破産管財人の手に渡っている。数千人の学生がいるから、何とかしてくれないか。」笹川は、「将来を担う若者が途方にくれ、不安にしている。そう考え、引き受けることになった。」

笹川は私財を投じ学園の再建に尽力した。関係者の想が通じ、十二年後の、昭和四十六年(一九七二)二代理事長笹川の奔走で和談が成立して倒産が回避され、学校は見事に立ち直った。

晩年の玉市は、学園こそ継続しているものの、次第に文部科学省主導の色合いが濃くなり、「文部科学省と言えど、私学の教育理念まで踏み込む権限はない」として、国を相手に訴訟を起こしている。ただこの訴訟は原告の玉市が亡くなることで、結審を迎えることはなかった。

教育者としての玉市、経営者としての笹川、二人の人生理念の違いはあるにせよ、学園が継続でき、多くの若者達の教育が守られたことは、両人の尽力と関係者達の努力の結果であろう。

八、博多と広田で伝え継ぐ玉市の足跡

甥の真雄氏は、北条中学校を卒業すると、昭和二十八年(一

か、皆目わからない。電子工学とは無縁の人間である。

中学校の修学旅行で、長野博覧会の見学に行った。そこで初めてテレビジョンを見た。三つの部屋を隔てて、映像が映っていた。不思議に思った。昭和三十年代、ポナナスをはたいて十四センチの白黒テレビを買った。店員が二人で、重そうに運んで来た。今では額縁程度である。

まだある。平成九年(一九九七)、夏の甲子園に行った。初戦の相手は、松井秀樹の石川星陵高校。私は、バス五十四台を手配した。先頭車の私に、業者が携帯電話を持たせた。それは凡そ縦三〇センチ横一五センチ高さ二〇センチで、重さ三キログラム程度の代物であった。通話一分一〇〇円、借料一日一万円らしい。それが今では胸ポケットに収まるではないか。

前置きが長くなった。私がテレビを見て驚いていた二、三年後、玉市は電子工学の学校設立に着手した。それが昭和二十九年(一九五四)、福岡和白ヶ丘の福岡高等無線通信学校の開校である。玉市五十五才のときであった。以下、電子工学の製品から得た資料等を見ると、玉市の学校の沿革は、次のようである。

兼原玉市が創立した学校の沿革

昭和29年(一九五四)福岡高等無線通信学校を福岡市和白ヶ丘に創立。昭和32年(一九五七)安部清美が明林高校を福岡市和白ヶ丘に創立。昭和33年(一九五八)学校法人福岡電波学園を設立。初代理事長に兼原玉市が就任。

福岡電波高等学校電子科を福岡市西戸崎に創設。昭和35年(一九六〇)福岡電子工業短期大学工学部を開校。

(同短大の開学式のために吹奏楽団が結成され、この年五月吹奏楽部創立。九州大会全国大会で優勝金賞を受賞。伝統を誇る部である。)

昭和38年(一九六三)福岡電波学園電子工業大学工学部を開校。

昭和41年(一九六六)福岡電波学園電子工業大学と改称。電子工業短期大学を福岡工業短期大学と改称。明林高校をひききり、立花女子高等学校として福岡市和白ヶ丘に創設。

昭和42年(一九六七)4月、福岡電波学園倒産。

昭和45年(一九七〇)2代理事長笹川良二(船舶振興会長)が就任。

昭和48年(一九七三)立花女子高校を立花高校と改称。(生徒二名になり、全国から中途退学者を受け入れることにする。)

平成2年(一九九二)3代理事長伊藤慶次が就任。平成9年(一九九七)4月、4代理事長田村良平が就任。11月、5代理事長鶴木洋一(ダイエーホークス社

九六三)四月、玉市が創立した福岡の福岡電波高等学校に入學した。続いて福岡工業大学で電子工学を学び、同四十五年(一九七〇)春、卒業して、東京の電子工学関連の会社に就職された。実弟の秀時氏(しゅうじ)もまた同じく、学園を卒業して、東京でソフトウェア関係の会社に就職されている。私は真雄秀時兄弟から、玉市や、福岡の学校、現在の兼原一族について、いろいろな話を伺い、資料をいただいた。

玉市の郷里である「新潟県柏崎市」と「福岡市」、距離こそ隔たつているが、今でも兼原一族の絆は固く、機会がある度に親交を深めているそうである。また玉市は生前に、「雪国新潟の県民性である「辛抱強さ」に九州人の「豪胆さ」が加わると、この上ない、最高の人材が育つであろう。」と周りに話していたらしい。金二郎氏と真雄氏等は、先人玉市の想いとその足跡を、後進に語り継ぐことが自分達の使命であると話されている。

あとがき

玉市が開いた学園から柔道の谷亮子、園田兄弟、野球の定岡卓摩、俳優の誠直也、大阪府知事松井一郎などが出ている。福岡和白ヶ丘では、今日も数々の学生が学舎に入入りしていることであろう。まさに兼原玉市と笹川良二のお陰である。二人とも「大したもんだ。」と思う。仏教用語でいえば、玉市が開山良二は中興開山であらう。倒産騒ぎをもつて、玉市を責めることはできない。玉市は昭和五十八年(一九八三)十一月十六日九州福岡で亡くなった。享年八十三才であった。

思うに、例の角さんが坂田に、「言、ささやいたような気がする。玉市角さんは同郷で、どこか似通ったところがある。残念なことは、玉市を知る資料が乏しく、玉市研究は山麓にさしかかった程度である。

私は、兼々、郷土の歴史や逸材と称される人物が忘れ去られていくのを憂慮している。

そこで農作業の傍ら、これまで米山検校藍沢南城星見天海閣根萬司、櫻出勇らの略伝をまとめてみた。さらに関矢マリ子五十嵐友五郎兼原玉市らに関心をもち、機会をみてまとめ、その記録を将来に残したいと願っている。たまたま、人づつてに甥にあたる真雄氏が玉市の生家を相続されていることを知った。そこで真雄氏にお会いして話を聞くことが出来た。生家の皆様には感謝して筆をおく。

(平成三十年二月二十八日)

決算・予算報告

平成30年度決算 平成30年度収支計算書(H30.4.1~H31.3.31) 単位:円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	20,740,000	大会費	6,424,913
雑収入	875,183	理事会費	1,991,157
前年度預り金	△2,890	企画・広報費	3,932,759
当年度預り金	2,590	組織支援費	4,706,481
年度収入合計	21,614,883	学生支援費	4,018,320
前年度繰越金	107,167,675	事務局費	4,880,896
		特別記念事業費	0
		予備費	294,200
		年度支出合計	26,248,726
		次年度繰越金	102,533,832
収入合計	128,782,558	支出合計	128,782,558

平成30年度貸借対照表(H31.3.31現在) 単位:円

資産の部		繰越金の部	
科目	金額	科目	金額
現金	267,296	預り金	2,590
普通預貯金	34,966,536	前期繰越正味財産	107,165,085
定期預貯金	67,300,000	任意積立金	98,966,923
		特別記念事業費積立金	8,198,162
		当期正味財産増減額	△4,633,843
合計	102,533,832	合計	102,533,832

※任意積立金は基本金、動向調査費積立金、同窓会館建設費積立金等の項目を合算表示しています。

令和元年度予算 令和元年度収支予算(H31.4.1~R2.3.31) 単位:円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	20,560,000	大会費	0
雑収入	10,000	理事会費	900,000
H30年度預り金	△2,590	企画・広報費	4,200,000
R1年度預り金	2,590	組織支援費	5,180,000
年度収入合計	20,570,000	学生支援費	2,500,000
前年度繰越金	102,533,832	事務局費	7,411,000
		特別記念事業費	13,000,000
		予備費	1,000,000
		年度支出合計	34,191,000
		次年度繰越金	88,912,832
収入合計	123,103,832	支出合計	123,103,832

期中増減額(H30.4.1~H31.3.31) 単位:円

区分	H30.4.1現在	期中の増減	H31.3.31現在
現金・普通預貯金	62,608,217	△27,374,385	35,233,832
定期預貯金	44,559,458	22,740,542	67,300,000
合計	107,167,675	△4,633,843	102,533,832



活躍するOB・OG

「音のバリアフリー世界づくりをめざして」

私が、何故この問題に取り組むようになったのか。それは、私が故郷に帰省すると母が大音量でテレビを見ており、近所の皆さんの迷惑にならないか心配いたしておりました。いつも、一人で居る高齢の母にとつて、テレビは唯一のお友達ですが、母と話を分かったことは、音量を大きくしてテレビを見ているがテレビで話している言葉が、正確に母に伝わっていないようです。そのことからテレビはつまらないと言っている母の言葉が気になっておりました。

そのようなことをキッカケに、高齢者に良く聴こえるスピーカーはないか探そうになりました。また、誰もが年を取ると加齢による難聴になり70歳頃になると50%の高齢者が難聴になり75歳頃になると70%の方が難聴になることを知りました。加齢による難聴は、難聴になっても本人がなかなか気づかないでいるようです。

典型的な症状はこの三点です。①テレビの音が大きいと言われませんか。②女性や子供の話す言葉が聴き取りづらく良く聴き返す。③体温計のピピピが聴こえていますか。このようなことがあるようであれば加齢による難聴の症状が始まっています。加齢による難聴は、テレビの音量を上げて音は聴こえますが、テレビの話す言葉が正確に伝わっていません。それは、「力行・サ行・ハ行」の中高音域の言葉を正確に聴き取れないためです。

加齢による難聴を解決していく為に「KYOUUK ANスピーカー」を開発しました。このKYOUUK ANスピーカーは、横波スピーカーなので従来の一般的なスピーカーと異なり室内の多くの音(掃除機の音・クーラーの音・冷蔵庫の音等々)に干渉されず皆さんの耳元まで音を届けます。KYOUUK ANスピーカーはヴァイオリン構造を取り入れた世界初の特許技術です。テレビの音を大きくしなくても高齢者に良く聴こえるスピーカーです。

加齢による難聴で困っている方々が、家庭・病院・商店街・市役所・防災行政無線等々で困らないように「KYOUUK ANスピーカー」を広め「音のバリアフリーの世界」をひろめて行きたいと思っております。

某局のTVニュースです
URL - <https://youtu.be/agTUWtWanw>
OaT-1を見ればOK

代表理事 倉田 篤志
(昭和45年管理工学科卒)

あの先生は今

元情報工学科 講師 谷口 泰敏

退職して約8年、現在74才。定年後、農業生活を夢見て日田の山奥に土地を購入。移住のために62歳で自動車の免許を取得。いざ移住となるといろんな問題が生じ断念、今は月1〜2回、福岡から通っています。日田ではイノシシの害がひどく収穫できず、この野郎太らして食ってやろつと狩猟免許を取得。今は宗像で家庭菜園、狩猟、養蜂(は日田)にチャレンジ。農地は約300坪、手押しの耕運機を武器にいろんな野菜を作っています。

代表取締役 福山 誠一
(昭和57年管理工学科卒)

私は1982年管理工学科を卒業しました。在学中は学業に励んだと言うより、学部を超えた友人達と、楽しく過ごした日々が思い出となり、その頃の友人とは、今でも交流があり貴重な財産です。卒業後1年間は議員事務所で選挙の手伝いをしていましたが、縁あって1982年に設立された、健和電気㈱に入社し現在に至っています。

近年は風水害が多く発生し、停電し生活に困窮されているニュースをよく目にしますが、当社の業務内容は、一般に知られている建物の電気工事ではなく、上下水道プラント設備・道路照明・通信設備等社会インフラに携わる電気設備工事を行っている会社です。

近年は人手不足とよく耳にしますが、特に建設業は5Kと言われ、若い世代に敬遠され電気工事の仕事に携わる人が少なく技術者不足となつて来ています。

今後はまだ深刻な状況になると予想されています。電気設備工事は、電気を安心・安全に使う為に、無くては成らない仕事です。

今年は卒業後37年の歳月を重ね、還暦を迎えましたが、今後元気な内は若い世代の技術者を育てる事を目標に頑張つていき、又プライベートではゴルフ・旅行等と余暇を楽しみたいと思います。

最後に本校の卒業生の皆様の益々のご発展とご健勝を心から祈念いたします。

福岡工業大学名誉教授 内田 一徳

40年の福岡工業大学勤務を終了して5年が過ぎた。在職中から、車通勤や喫煙の習慣を止めなど健康に少しは気を使ってきたが、退職後は散歩、家事労働、退官記念に卒業生から頂戴したギターをつま弾くなど、体をこまめに動かすことを心掛けています。

家に閉じこもるのを少なくするため、種々の飲み会、高校・大学の同窓会、地区の清掃活動など、可能な限り参加することになっている。また体力と気力が残っている間は、研究活動を続け、国際会議で発表していきたいと考えている。欧米には、美術や音楽鑑賞のための施設が充実した国が多い。会議出席を利用して、夫婦同伴の海外旅行を楽しむこともできる。今年は米国、韓国及びベルギーに行くことができた。格安航空券や手ごろな値段のホテルを自宅からネット予約できるので、年金生活者に好都合である。

私が教鞭をとった卒業生の身近な例であるが、松尾慶太・池田誠の両君は福岡工業大学情報通信工学科の教授・准教授として、大津雅博君は福岡県立三瀬高等学校の校長として頑張っている。また本田純一君は電子航法研究所の研究者として、現在ドイツに留学している。その他にも色々な分野で、卒業生諸君が活躍している。このような卒業生の努力が、福岡工業大学の将来を盤石なものにしていくものと確信している。

最後に、福岡工業大学同窓会の益々の発展を祈念します。

